

研究・調査報告書

報告書番号	担当
350	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Population attributable risk of tobacco and alcohol for upper aerodigestive tract cancer. 上部気道消化管癌に対する飲酒、喫煙の人口寄与危険度	
執筆者	
Anantharaman D, Marron M, Lagiou P, Samoli E, Ahrens W, Pohlmann H, Slamova A, Schejbalova M, Merletti F, Richiardi L, Kjaerheim K, Castellsague X, Agudo A, Talamini R, Barzan L, Macfarlane TV, Tickle M, Simonato L, Canova C, Conway DI, McKinney PA, Thomson P, Znaor A, Healy CM, McCartan BE, Hashibe M, Brennan P, Macfarlane GJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Oral Oncol. 2011 Aug;47(8):725-31.	
キーワード	
上気道および上部消化管癌 ARCAGE 研究 人口寄与危険度 たばこ アルコール	
要 旨	
目的： 喫煙と飲酒は、上部気道消化管癌の大きなリスクファクターであるが、ヨーロッパ内で、これらの癌の発症率は有意に異なっている。我々は、上部気道消化管癌が喫煙と飲酒によってどの程度説明できるか、ヨーロッパの地域、部位、性別年齢でどの程度罹患率に影響を与えるかを推定した。この推定はヒトパピローマウイルスを含む上部気道消化管癌危険因子の影響を推測するにも有用である。	
方法： ARCAGE マルチセンター研究からの 1981 例の上部気道消化管癌群と 1993 の対照群を比較し分析した。分析では、喫煙のみ、飲酒のみ、喫煙と飲酒の複合効果の人口寄与危険度を調査した。	
結果： 喫煙飲酒合わせて上部気道消化管癌群の 73%が説明可能で、内、喫煙のみが 29%、飲酒のみが 1%以下、飲酒喫煙複合は 44%であった。喫煙と飲酒を合わせた人口寄与危険度は口腔 (61%)、食道 (67%)、上咽頭癌 (74%) より下咽頭・喉頭癌の (85%) が大きかった。女性では、喫煙および飲酒では上部気道消化管癌の半分のみが説明可能であった。地理学的には、喫煙および飲酒での上部気道消化管癌は、中央ヨーロッパでは 84%、南ヨーロッパでは 72%、西ヨーロッパでは 67%が説明可能であった。	
結論： ヨーロッパにおける上部気道消化管癌は主に喫煙あるいは飲酒の複合的影響によるが、本研究からは特に口腔・中咽頭癌あるいは西部あるいは南部ヨーロッパにおける上部気道消化管癌において他の重要な危険因子の存在を示唆している。	